

# SOUZOU

発行元:社会福祉法人ほっと未来SOUZOU舎

〒362-0058 埼玉県上尾市大字上野358番地12 Tel:048-729-8422 https://hmss.or.jp



2025.09

vol.6  
令和7年10月発行

[夏祭りの一日]

-ともに育てる、いのちと地域の未来 —令和七年度の事業実施に寄せて	02
N e-sportsを導入しました!	03
D ほっこどもBBQを開催しました	04
M 法人全体研修報告「ここちよい法人を目指して」	05
B バリアフリー演劇 in 上尾 実行委員会をスタートしました	05
X DEIB(ティブ)推進室を設置しました	06
休憩室から	07
職員インタビュー 私はなぜこの仕事に向き合うのか	07
居住施設整備住民説明会開催しました	08
書籍紹介「家族が産まれる」	08

## 居住施設整備 住民説明会開催しました

去る令和7年5月31日(土)、上尾市

平方地区・上野自治会会館にて、障害者グループホーム建設に関する説明会を開催しました。大雨の中、地域住民の方6名にご参加いただきました。

当団は、田中支援課長杉山より、施設の概要や目的、入居者の生活支援体制、地域連携推進会議について説明を行いました。具体的には、一人暮らしに向けた体験の場としての役割、通過型グループホームとしての機能、医療的ケアを含めた緊急受け入れを行う短期入所など、地域生活支援拠点としての位置づけについてお話ししました。また、設計事業者からは建設予定地および建物の概要についてご説明しました。

質疑応答では、着工日や開所日、入居される方の生活について、職員の採用や研修に関することなど、活発なご質問やご意見をいただきました。

いただいたご意見は埼玉県へ提出する協議書に反映し、今後も誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して、居住施設の整備に取り組んでまいります。



WAN-KAI

認定NPO法人 環の会

子どもの福祉のために、特別養子縁組が制度化されてから37年が経過しました。特別養子として子どもを迎えた家族について、知つてほしい、という思いを抱きながら日々過ごすようですが、ご家族の、普段着のままのお写真と共に、リアルに書かれていました。血のつながりではなく、絆で結ばれた家族のよさをお読み頂くと、子どもを育てる意味について振り返る機会となります。手に取ってご覧頂けると、子育てのヒント、そして親への向き合い方のヒントも、得られるものと思います。

環の会代表理事 星野 寛美

※こちらの冊子は販売しておりませんので、ご希望の方は法人事務局までご連絡ください。

## 「家族が産まれる」 認定NPO法人 環の会



広報誌「SOUZOU」VOL.6をご覧いただきありがとうございました。本号ではUD e-sportsやDEIB推進室など、新たな取り組みをお伝えしました。記事を編む中で印象に残ったのは、どの取り組みも「楽しさ」や「心地良さ」を大切にしていることでした。私たちの目指す、様々な枠組みを超えた繋がりや居場所の創造が、記事一つひとつに息づいているように感じました。小さな挑戦や新しい試みが積み重なって、やがて誰もが安心して暮らせる地域という大きな形になっていくのだと思います。今後も、誌面を通じて皆さんとこの歩みを共有できれば幸いです。(小城友幸)

ともに育てる、いのちと地域の未来

## —令和七年度の事業実施に寄せて—

新しい年度を迎へ、皆さまに心より挨拶を申し上げます。

旧年度中は、当法人の活動にあた  
たかなご理解とご支援を賜り、誠に  
ありがとうございました。令和七年  
度も、私たちは共生社会の実現を目

昨年から始動した「映画制作プロジェクト実行委員会」では、子どもたちのかけがえのない「いのち」と「パーマネンシー」を保証する社会的基盤づくりに向けてのメッセージを届ける映画制作に向けて、実行委員会にて関係機関、当事者・家族の皆さんと対話や撮影の準備を進めてまいりました。家庭という環境のもとで、子どもが安心と永続性を持つて育つていけるよう、法制度や支援体制のあり方を見直すこと、そして、社会の中にある価値観の変容や理解を深める啓発の取り組みがますます重要になります。今年度は映像制作を中心しながら上映に向けた広報活動への協力を進めています。

ていく予定しています。皆さまとともに、子どもたちを「社会の子ども」として社会全体で支える輪を広げていきたいと考えています。

また、当法人も加盟する「全国地域生活支援ネットワーク」では、本年度も各地で多彩な活動が展開されます。なかでも私が注目しているのは、「タイ・カオディーン村交流ツアーアー」です。これまでも継続して行ってきた事業ですが海外との地域共生の実践に触れ、暮らしと支援がどうつながっているのかを肌で感じられる貴重な機会となります。福祉の原点は「ともに幸せに暮らすこと」。国境を越えて、その意味を見つめ直す旅となることでしょう。

さらに、今年も各地でバリアフリー演劇やアール・ブリュットなど、日本博覧連事業が盛りだくさんに行催されます。当法人でも、来年1月25日に「ヘレン・ケラーハビキ合うものたち」を上尾市にて上演予定です。障害のある人もない人も、共に舞台をつくり、観客と響き

合うその姿は、まさに“文化による共生”的実現そのものです。表現と空間を作ることを通じて、誰もが自分らしく生きる意味を共有できると言っています。

また、障害者自立支援法施行20年・介護保険法施行25年という節目の年でもあります。この20年で、私たちの地域生活支援の仕組みは大きく変わりました。しかしその進展の陰で、まだ変えていかなければならぬ重要な部分も残されたままです。今年も引き続き、全国の仲間と連携しながら、「いまひとつ」をめざしていきたいと思います。

だから「制度をつくる」だけでなく、「自分たちの社会のこれからをどうしていくべきか」を多くの対話と知恵を集め実践を重ねてまいります。

本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

株式会社  
下里晴朗

# 社会福祉法人 ほっと未来 SOUZOU舎



楽しい!

勝ってうれしい!

UDLとはユーバーサルデザインの略称で、誰もが使いやすい設計を意味します。使用するコントローラーはボタンが4つだけのシンプルな構造で、障害のある方でも無理なく参加できるよう工夫されています。導入のきっかけは、昨年12月に九州の社会福祉法人明日へ向かってを視察した際に、実際にe-Sportsが活用されている様子を目にしたことでした。重度の障害を持つ利用者が真剣な表情で取り組んでいる姿は、私たちに大きな可能性を感じさせました。

導入後の変化として、利用者が集中して取り組む姿や、反応速度の向上、自主的な参加意欲が顕著に見られるようになりました。また、ゲー

UD e-Sportsをさらに発展させるべく、関わりを持っている他法人とのオンライン交流も開催が決まりました。今後もより多くの人々がつながれる仕組みづくりを進めていきたいと考えています。福祉とテクノロジーの融合を通じて、すべての利用者が自己表現できる環境づくりを目指し、今後も挑戦と工夫を重ねてまいります。

e-Sportsという言葉をご存知でしょうか。2000年頃から注目され始め、今では世界的な大会が開催されるほど成長した分野であります。この時代の流れを受け、

ムを通じた自然な対話や応援が生まれ、「ミニユーニケーションの機会が増えたことも大きな成果です。これまでアプローチが難しいと感じていた利用者に対しても、新たな支援の糸口となっています。

# e-sports を導入しました！



## 「ここちよい法人を目指して」 ～理念の展開と私たちの役割～

### 法人全体研修報告

令和7年4月5日、法人全体研修を開催しました。

午後の講義では、社会福祉法人スプリングひびき理事長宮原里美氏をお招きし、「ここちよい法人を目指して～理念の展開と私たちの役割～」と題してご講演いただきました。

社会福祉法人スプリングひびきは、佐賀県を拠点に、重度心身障害がある方や医療的ケアが必要な方も住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、訪問支援・居宅支援・日中支援をはじめ、地域活動支援や法人独自の事業など幅広い福祉サービスを展開しています。宮原理事長からは、法人理念である「地域に根ざす」「地域で暮らす」「自立した生活をする」を軸に、利用者と職員の双方にとって“ここちよい”環境づくりを進めていることをお話をいただきました。

環境づくりの試行錯誤の歩みとして、他法人の施設を参考に開設したグループホームが利用実態に合わせず、10年程で建て替えに至った経験も紹介されました。その教訓から、令和5年に開所したグループホームでは、汚物処理システムを備えた洗濯機や移乗アシストライザー、離床検知・バイタル測定ができるセンサーと、いつた最新設備の導入だけでは

**法人紹介**  
**社会福祉法人スプリングひびき**  
理事長:宮原 里美氏  
本部所在地:佐賀県高木瀬町大字長瀬196-3  
設立:平成14年3月22日  
(社会福祉法人 ひびき親和会)  
**事業所**  
訪問系:居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護  
居宅系:共同生活援助(定員8名)・短期入所(定員2名)  
日中系:生活介護(定員25名)・就労継続支援B型(定員10名)  
放課後等デイサービス(重心定員5名)

## バリアフリー演劇 in 上尾 実行委員会がスタートしました

社会福祉法人ほっと未来SOUZOU舎では、誰もが共に舞台芸術を楽しめる社会を目指し、「バリアフリー演劇 in 上尾」の開催に向けて実行委員会を立ち上げました。

今回の演目は「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち」。2026年1月25日(日)に、上尾特別支援学校での公演となります。

実行委員会は、知的障害や視覚・聴覚障害の当事者

く、職員向け休憩室にシャワーを設置するなど、利用者・職員双方にとって安心・安全なホームづくりを実現していくことも共有されました。

講義後には、チームワーク向上を目的としたミニゲームやグループワークを行い、自己紹介や心情表現を通じて互いを理解し合い、価値観を語り合うことで、多様な考え方の中にも「利用者に笑顔を届けたい」という共通の思いがあることを再確認しました。

宮原理事長のお話は、「できないことに目を向けるのではなく、いかに実現するか」を追求する姿勢に満ちていました。参加した職員からは「まずはチャレンジすること」「互いに支え合うことの大切さを学んだ」との声が寄せられ、一人ひとりの強みを活かし、工夫と協力を重ねることで、より良い支援につながることを実感することができました。



## ほっとこどもBBQを開催しました

5月24日(土)、障害児・者多機能施設アジールにて「ほっとこどもBBQ」を開催しました。

昨年度のご意見をもとに、来場した方がワインナーを焼く体験ができるBBQグリルを用意したところ、子どもたちが嬉しそうに集まり、焼き上がったワインナーを頬張る姿がとても印象的でした。ワイン「インで提供したBBQランチBOXも大好評で、「美味しい！」と声をかけてくださる方も多くいらっしゃいました。

また今回は、メディアでも多数取り上げられている「風船太郎さん」をお招きし、バルーンパフォーマンスを披露していました。普段は少し前に出る勇気が出ない子どもたちも、大きな風船の中に多くいらっしゃいました。



体を入れるダイナミックなパフォーマンスを目の当たりにし、「やつてみたい！」と目を輝かせていました。その姿を見て、誰かを笑顔にできる力は、人を惹きつける大きな魅力になるのだと感じました。

SOUZOU舎では、利用者やそのご家族、そして地域の子どもたちを中心、日常生活ではなかなか得られない体験の機会として、毎年BBQイベントを開催しています。楽しみながら挑戦する機会は、人生を豊かにする大切な要素のひとつだと考えています。誰もがそうした体験を得られる社会を目指して、アジールはこれからもさまざまな活動に取り組んでまいります。

団体や家族会、児童養護施設、フリースクールなど子どもに関わる団体と連携しながら、多様な立場の人たちが協働するかたちで構成を検討しています。

実行委員会の皆さんからバリアフリーやインクルーシブな舞台を作るために必要な視点をいただきながら、誰もが楽しめる舞台づくりを通して、地域に新たなつながりと響き合いを作っていくと考えています。

# ディイブ DEIB推進室を 設置しました

こんにちは。DEIB推進室 室長の矢ヶ崎です。

当法人では、今年度から新たにDEIB推進室を設置し、さまざまな取り組みを進めています。

「DEIB(ディイブ)」という言葉は、まだ聞きなじみがない方も多いかもしれません。

これは、

**D=ダイバーシティ(多様性)**

**E=エクイティ(公平性)**

**I=インクルージョン(包摶)**

**B=ビロンギング(帰属)**

の頭文字をとったものです。

一人ひとりが違いを尊重され、公平に機会が与えられ、仲間として受け入れられ、自分の居場所を感じられる、そんな社会を目指す考え方です。

この理念は、日本ではまだ比較的新しいですが、外資系企業や大学、福祉・教育機関などで徐々に取り入れられています。また、「DEIB」という言葉を使ってはいるなくとも、地域住民の多様性を認め合い、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指す自治体の取り組みも全国に広がっています。つまり、私たち一人ひとりにとって

ても深く関わりのある考え方なのです。

当法人でも、利用者の皆さんとともに、日々の活動の中で「多様性を尊重する姿勢」や「誰かと共に生きる感覚」を育むことを大切にし、地域の方々との交流や、私たち自身が地域に出ていく取り組みにも力を入れています。

これまで、ボランティアとして地域の方に施設に来ていただき、音楽や歌をともに楽しむ機会を設定するなど、日常の体験とは少し違った活動や地域の方との結びつきを大切にしてきました。また、毎年おこなっているアジール祭やほっとこどもBBQなどの場でも、地域の方に来ていただくだけではなく、ともに創り上げることを目指し、当日の運営をお手伝いいただけるボランティアのみなさまも募集しながら企画をおこなっております。来年1月には、バリアフリー演劇in上尾の開催も決定し、現在は近隣のさまざまな事業所や関わりのあるみなさまとともに実行委員会を立ち上げ、地域の多様な方々と体験を共有する「共生の場」づくりを目指して準備を進めているところです。

今後も、こうした“事業所の中”だけでは持つことがむずかしい交流の場を大切にしながら、年齢や障害の有無、立場や環境の違いを超えた「つながり」を育むことができるよう、さまざまな取り組みに挑戦してまいります。



## 休憩室から

小森 香織さん

畔上 浩子さん

最近、仕事で「楽しいな」と思ったのはどんなときですか?

日々利用者の方と接するなかで、その人なりの考えに気づける瞬間があります。小さな発見を重ねながら、その人の歩みに寄り添っていく。その過程そのものが、この仕事ならではの喜びかもしません。

そういうとき、「ああ、そう考えていました」って気づけると嬉しいよね。言葉でのやり取りが難しい場面でも、その人の考え方やルールに触れられるなりの考え方やルールに触れるとい、ぐっと距離が縮まる気がする。

## 職員インタビュー 私はなぜこの仕事に向き合うのか

アジール生活介護  
大友 稜也 職員



私は大学で心理学を学んでいましたが、友人に誘われて福祉施設の見学に行つたことがきっかけで、この仕事に進むことを決めました。現場で出会った利用者さんの姿に強く心を動かされ、「自分もここで関わってみたい」と思ったのが出発点です。最初の職場では多くの経験を積みましたが、より自分らしい関わり方を探したいと考え、当法人に入職しました。実際に働き始めてからは、職員同士で支え合いながら、一人ひとりの利用者さんに丁寧に向き合える環境に魅力を感じています。

仕事の中で私が大切にしていることは「利用者さんが主役でいること」です。職員が決めるのではなく、利用者の希望や個性を尊重し、その人らしい生活を支えたいと考えています。笑顔で過ごすことはもう一度あります。

うん、日常の中にそうした発見があるから、この仕事は飽きないよね。毎日の繰り返しに見えて、ふとした瞬間に利用者の世界が垣間見えるのが楽しい。

一方で、私は学生の頃から音楽が大好きで、特にパンクロックに強く影響を受けてきました。セツクス・ピストルズやクラッシュ、グリーン・デイといったバンドに夢中になり、音楽から「自分らしく生きること」の大切さを学びました。今後はそうした音楽の力も福祉の現場に取り入れ、利用者さんと一緒に音楽を楽しむ時間を持ったりして、新しい経験や喜びを共有できたらと考えています。

これからも、自分の経験や個性を活かしながら、利用者さん一人ひとりが自分らしく輝ける場をつくっていきたいと思います。

07 SOUZOU vol.6

日々利用者の方と接するなかで、その人なりの考えに気づける瞬間があります。小さな発見を重ねながら、その人の歩みに寄り添っていく。その過程そのものが、この仕事ならではの喜びかもしません。